

『吾輩は猫である』をフランス語で読む

原 野 昇

はじめに

およそ言語に興味・関心をもつ者は、世界にある 4000 とも 5000 とも言われる諸言語の背後にひそむ共通性、言語の普遍性、いわゆる *Eine Sprache* に興味をひかれる。それと同時にその反対の、諸言語の種々性、多様性にも興味をそそられる。本稿は後者、すなわち各言語の特殊性、個性性について、筆者が日頃関心をもっているフランス語と、母語である日本語との比較・対照をとおして、両言語の特徴の一端を明らかにしようというものである。資料としては、夏目漱石の『吾輩は猫である』（岩波文庫）とジャン・ショレ氏によるフランス語訳 *Je suis un chat*, Gallimard/UNESCO, 1978 に限定することにする。言語研究に文学作品をとりあげることにメリットもデメリットもあるであろう。ここでは、個々の表現について、作家が細心の配慮をほどこした結果であるという事実をメリットと位置付けたい。また一作品のみに限定することにより、日本語とフランス語についての一般的結論は出しにくいだが、一人のフランス語を母語とする人が、明白なコンテキストに位置付けられた各表現を、どのようにフランス語に移して、新たなフランス語の作品世界を創造していこうかと推敲を重ね、細心の配慮をこらした結果であるという事実を、推論の基本としたい。さらに補足ながら、ショレ氏の翻訳は、大胆な意識ではなく、原作の表現の細部をもできるだけフランス語でも再現しようとする、いわば忠実な翻訳とすることができるのではないかと思う。

各言語の語彙はそれぞれの言語で一つの全体をなしており、各単語はその全体との関連において価値を有する。したがって、異なる言語の各単語の価値が等しいということは、基本的にはありえない。例えばタイトルにある表現「吾輩は猫である」と *Je suis un chat* を比べてみると、一見びたりと対応しているように見えるが、そこには大きな差がある。「吾輩は～である」が *Je suis* に対応するとしても、「私は～です」「僕は～だ」「俺は～だ」「わしは～じゃ」「あたいは～よ」もフランス語では *Je suis* で表されるであろう。*L'Etat, c'est moi.* が「朕は国家なり」と訳されることも参照されるべきであろう。さらに「私は学生（日本人）です」

は普通 *Je suis étudiant (Japonais)* と無冠詞で表されることを思えば、*un chat* は単に主語の属性を示しているのではなく、「一介の猫 (にすぎない)」のニュアンスが含まれていることが分かる。「私は」「僕は」ではなく「吾輩は」となっていることを、この不定冠詞によって表しているとも言えよう。したがって、「吾輩は猫である」=*Je suis un chat*. あるいは、「猫」=*chat* (または *un chat*) と単純にはいかないのである。

しかし A, B という二つの言語の語彙を比較した場合、概念が非常に近い単語と、非常に大きく異なっている単語がある、ということもまた否定できない。この度はこの後者に属する単語について見ていく。方法としては、原典とフランス語訳とを対照して、日本語原典とフランス語訳の対応関係が比較的容易に指摘できるものを除外し、対応関係が指摘しにくいもの、または予想外の印象を与えるもの、すなわち、日本語とフランス語とで、その概念形成が大きく異なっていると判断できる表現をひろい出した。その際まず筆頭に来るのは、擬音語・擬声語および擬態語であるが、それらは別稿で扱うこととし、本稿ではその他の表現について見ていくことにする。擬音語・擬声語および擬態語以外の特徴的表現を、便宜上次の三つのカテゴリーに分類して見ていく。1. ぼかし表現, 2. 情意表現, 3. 主観表現。

2. ぼかし表現

まず目につくのは、対象物や場所や時間などを明確に限定することを避け、あいまいにぼかす表現である。多くの場合、対象物や場所や時間を表す語の前後に何らかの**ことば**を補って、当該語が表している対象物や場所や時間をあいまいにする方法である。また形容詞や動詞、さらには文全体をぼかす場合もある。ぼかされているのが対象物か、場所か時間か、あるいは動詞、形容詞、文全体かなどによって分類することができるであろうが、ここではぼかされているものは区別せず、該当表現の 50 音順に列挙していくことにする。

これらはフランス語では *sembler, ressembler, avoir l'air* などの動詞, *quelque chose, un peu, autre* などの表現, *devoir* の法的用法, 動詞の時制形や法などで対応されている場合もあるが、対応するフランス語の表現がない場合が非常に多い。このことから、これらの表現が日本語に特徴的なものであると言えよう。(引用文の後の数字はページ数と行数。ただし日本語原典はページ数のみ。- 符号はページの終わりから数えた行数。なお日本語原典のルビは省略したものもある。)

いいかげんな

帽子はいいかげんな大きさをを買ってくれ (117)

je devais acheter un chapeau de pointure modérée, (120, 19)

いささか

いささか寂寞の感はあるが (86)

et je me sens *un peu* seul (91, 2)

いづれ

「いづれそのうちお礼はいたしますから」 (114)

en prenant soin de préciser qu'elle ne manquera pas de penser à une petite récompense pour le service rendu (117, -5)

いつになく

いつになく富士見町の方へは足が向かないで (70)

Pour une fois, je ne me suis pas dirigé comme d'habitude du côté de (78, 4)

いつになく手ざわりのあらい言葉を使う (111)

qui paraît quelque peu écéuré, d'un ton *ihabituellement* rude (114, 16)

いつのまにか、いつのまにやら

いつのまにか迷亭先生の手紙が来ている (57)

et trouve une lettre de Meitei sur sa table (66, -10)

と主人はいつのまにやら帰って来て迷亭のそばへすわる (96)

Mon maître qui vient de rentrer s'assied à côté de Meitei (101, 1)

うんぬん

ギリシア語うんぬんはよしたほうがいい (99)

Il vaut mieux supprimer ce passage à propos du grec (103, -17)

か何か、や何か、かなんぞ (cf. なんか、なんざ、なんぞ)

迷亭は大島紬に古渡更紗か何か重ねてすましている (106)

Celui-ci reste très calme dans son kimono de pongé d'Oshima sous lequel il a mis un vêtement de mousseline de soie (110, 18)

そんな首くくりや何かやってたんじゃ、とても博士にはなれますまい (112)

Il ne sera jamais docteur s'il s'occupe de pendaison *ou de cette autre chose* (115, 2)

何かお宅に手紙かなんぞ当人の書いたものでもございますなら (113)

Si vous avez une lettre de lui, *ou quelque chose* qu'il a écrit (116, 5)

くらい

もし当人が勉強して近いうちに博士にでもなったらあるいはもらことができるかもしれないくらいはそれとなくほのめかしてもかまわん (144)

s'il travaille assez pour obtenir son doctorat dans un avenir proche, nous la lui donnerons peut-

être. Tu peux faire sentir discrètement cela à Kushami. (144, -5)

それとなく

・・・ぐらいはそれとなくほのめかしてもかまわん」(144)

Tu peux faire sentir *discrètement* cela à Kushami (144, -3)

そろそろ

「そろそろ出かけましょうか」(79)

demander si nous partions (85, 1)

鼻子はようやく納得してそろそろ質問を呈出する (111)

Hanako semble convaincue et *commence* son interrogatoire (114, 20)

たしか

たしか暮れの二十七日と記憶しているがね (69)

si je me souviens bien, c'était le 27 décembre (77, 8)

ではないが、じゃないが

寒月君じゃないが前歯がみんな折れるかと思った (44)

Je ne suis pas Kangetsu, mais j'ai l'impression que (52, -8)

でも

寒月がお嬢さんにつけ文でもしたんですか (108)

Kangetsu a *peut-être* envoyé un billet doux à votre fille ? (111, -6)

何かお宅に手紙かなんぞ当人の書いたものでもございますなら (113)

Si vous avez une lettre de lui, ou quelque chose qu'il a écrit (116, 5)

どうにか (こうにか)

「まあ、どうにかこうにか落っ付いたんだらう。(118)

--- *Oui, d'une façon ou d'autre.* (120, -10)

どうも

どうもあんな教員があるから、ほかの者の、迷惑になって困ります (124)

Et tout le monde à l'école doit pâtir de ses excentricités (126, -3)

いろいろ調べてみましたが鼻の起原はどうもしかとわかりません (130)

En dépit de toutes mes recherches, l'origine du nez reste incertaine (132, 21)

なんか、なんざ、なんざあ、なんぞ

おさんなんぞに顔を見られるのも (44)

de m'exposer aux regards d'O-San *et des autres* (53, 1)

君は・・・いいがまくなんざあ (97)

Peut-être pour toi qui ... mais *pour moi* (101, -6)

それじゃ寒月のことなんか聞かんでもいいでしょう」(107)

Dans ce cas, quel besoin avez-vous de vous renseigner sur lui ? (111, 11)

なんだってよりによって狸なんぞかくんでしょうかね (113)

Pourquoi dessine-t-il plutôt un blaireau qu'autre chose ? (116, 15)

このあいだなんざ園遊会へおいでになった」(106)

Il a récemment assisté à une réception donnée dans son parc (110, 10)

なんだか

なんだかごたごたして私にはわかりませんわ」(96)

Tout cela est *bien* embrouillé et je ne m'y retrouve plus (100, -13)

なんだか^{うわごと}讠言を言ったように聞いたね」(110)

et qui a dit *quelque chose* dans son délire (114, 4)

なんだかフワフワした感じが^さ (10)

une légère impression de flottement (23, 10)

なんだか猫でないような気がする (92)

avec la *vague impression* de ne plus être un chat (51, -10)

なんだか足音がして奥より人が来る気合いである (43)

lorsqu'il me semble entendre un bruit de pas à l'intérieure de la maison

なんだかちと、あぶないようになりそうですな (80)

j'ai l'impression que je vais aller encore plus mal (85, 22)

なんだか様子が変わだと (83)

sentant que quelque chose est arrivée à Mikeko (88, 1)

なんだか世間がものうく感ぜらるる (85)

La vie a pour moi *je ne sais quel* goût de mélancholie (9, -11)

なんでも

なんでも二十日ごろだよ (76)

ce devait être vers le 20 (82, 17)

先生なんでも理学協会で演説をすとかいのでね (97)

Il paraît que Monsieur fait une conférence à la Société de Physique (101, 23)

なんとか

迷亭もこうなるとなんとか月並みの処置をつけなければならぬ仕儀となる (96)

Cette fois, Meitei doit donner une explication pour en finir (100, 15)

なんとなく

寒月はなんとなくそわそわしているごとくみえた (36)

Kangetsu semblait *quelque peu agité* (46, 19)

顔を見られるのもなんとなくばつが悪い

je me sens gêné de ... et de m'exposer aux regards d'O-San

なんとなくごたごたした文章である (88)

C'est une phrase *un peu désordonnée* (92, -2)

(～せん) ばかり

さもギリシア語ができますと言わんばかり (99 0)

tu aurais l'air de dire que tu sais le grec (103, -16)

へちまも

修行もへちまもいったものじゃないのに当人は全く克己の力で成功したと思っている
んですからね。(117)

Il n'a jamais fait d'exercices *ou quoi que ce soit d'autres*, mais il croit avoir réussi entièrement
grâce à son contrôle de soi-même. (120, 3)

無礼もへちまもないのである。(147)

il n'y a rien là qui indique un manque de tenue *ou autre chose* (147, 3)

我知らず

土手三番町の方へ我知らず出てしまった (70)

mes pas m'ont porté à *mon insu* vers Dotesambancho (78, 6)

と細君は我知らずうがったことを言う (96)

dit ma maîtresse, frappant juste *sans s'en rendre compte* (100, 14)

言語は、話し手である A という主体が聞き手の B という主体へのはたらきかけ、すなわち何らかの刺激を与えることである。その際、A は B にあえて強い刺激を与えようとする場合もあるが、一般的には A は B に対するショックや刺激をできるだけ少なくしようとする。上に見たばかり表現は、話し手のそのような傾向を反映したものである。そのこと自体はどの言語でも見られることであるが、上の例で、日本語の同じ表現に対しフランス語訳では種々多様に訳されていたり、対応表現が見つからない場合が少なくないということは、日本語の場合、そのようなばかり表現がごく一般的になされているのに対し、フランス語ではそれほどでもないということになるのではなかろうか。

3 情意表現

情意表現と次の主観表現とは区別しにくいですが、同じ情意的表現のなかでも、価値判断をはじめ何らかの判断に基づいていると思われるものを主観表現として、区別してみた。

あれでも

曾呂崎はあれでもぼくの親友なんだからな (90)

Et c'était un de mes amis (95, 5)

おもわず

寒月は思わず吹き出す (99)

Kangetsu ne peut s'empêcher d'éclater de rire (103, 28)

迷亭と主人は思わず顔を見合わせて (104)

Mon maître et Meitei se regardent sans un mot, surpris (108, 14)

ぜんたい

あの人はぜんたいどんなふうなんでしょう」(107)

je voudrais savoir quel genre d'homme il est (110, -4)

だけに

女だけに「・・・」と注意する (115)

étant elle-même une femme (118, 22)

とても、とうてい

日本人は・・・だからとうていだめだと (103)

c'était impossible parce que les Japonais (107, 14)

そんな首くくりや何かやってたんじゃ、とても博士にはなれますまい (112)

Il ne sera jamais docteur s'il s'occupe de pendaison ou de cette autre chose (115, 2)

とんだ

とんだ冤罪をこうむったものだ (65)

Cette accusation est entièrement fausse (72, -5)

なにしろ

なにしろ寒月君がやるくらいだから、研究する価値があるとみえますな」(112)

mais si Kangetsu les étudie, c'est qu'ils doivent en valoir la peine (115, 17)

なにしろ十年一日のごとくリードル専門の教師をしているのでもだいたいおわかりになりましょう (139)

Voici dix ans qu'il enseigne avec le même livre de lecture (142, 1)

なにも

「なにも長く前歯欠成を名乗るわけでもないでしょうから御安心なさいよ (112)

Rassurez-vous : il n'a pas l'intention de se faire appeler le Sire de la Dent Cassée (116, 1)

なんてえ (などという)

「やりたいなんてえんじゃないんです」 (107)

Je n'ai *jamais* dit cela (111, 7)

べつに

吾輩を知らずして虐待をするのはべつに腹も立たない (86)

Je ne ressens plus de colère quand ... (89, -2)

べつだん

べつだんおもしろいこともないようだ (104)

Pas spécialement (108, 8)

むやみに

とむやみに加勢すると (95)

Meitei prend *un peu trop* le parti de mon maître (100, 2)

迷亭がむやみに風来坊のような珍語をはさむのと (102)

Meitei n'arrête pas de faire des remarques toutes plus fantasitiques et bizarres *les unes que les autres* (105, -3)

と迷亭はむやみに出す (絵ハガキを) (114)

propose Meitei (117, -15)

わざわざ

わざわざ年始状をよこした迷亭君が (65)

qui a *pris la peine* d'envoyer une lettre de vœux (73, 3)

それをわざわざ知らせに来る君のほうがよっぽどおもしろいぜ (104)

que *tu te sois dérangé* pour venir me dire cela (108, 9)

4. 主観表現

案外, 存外

主人は案外まじめで (102)

celui-ci demanda sérieusement à Kangetsu (105,-12)

すると存外うまくできたんだ (103)

il a réussi à se faire comprendre, *contre toute atteinte* (107, 7)

いっそ (のこと)

いっそのこと気をかえて (44)

Il vaut mieux me changer les idées (53, 2)

いやに

あの師匠はいやに上品ぶって (110)

Cette maîtresse de koto prend des airs supérieurs (113, -13)

いやに髭なんかはやして」 (124)

Et cette moustache ! (127, 2)

さすがの

さすがの迷亭君も少々窮したとみえて (94)

Celui-ci, pour une fois, ne sait que dire (98, -2)

さすがの迷亭もこの不意撃ちに胆を抜かれたものとみえて (108)

celui-ci ... et même Meitei semblent vaciller sous ce choc imprévu (112, 20)

せっかく

せっかくしゃくい出した砂糖を元のごとく壺の中へ入れてしまった (34)

il a remis où il devait être le sucre qu'elles s'étaient versé avec tant d'ardeur (44, -15)

せっかくここまで来たかいない (52)

nous avons perdu notre temps à venir dans ce restaurant (60 -8)

せっかく来たのになあ (53)

nous nous étions dérangés pour rien (61, 14)

せっかくの苦心も・・・落第となった (90)

mais il s'est donné de la peine pour un bien piètre résultat (94, 22)

ちゃんと

ちゃんとわかっています (96)

Je sais clairement ce que c'est (100, 11)

ちゃんと車屋のかみさんが知らせに来てくれたんです」 (143)

la femme du voiturier est venue me le rapporter (144, 17)

つくづく

その時におさんという者はつくづくいやになった (12)

C'est alors que naquit en moi une profonde aversion pour O-San. (25, 13)

どうか

どうか私のまいったことは寒月さんへは内々に願います (114)

Je vous demanderai de taire ma visite à M. Kangetsu (117, -10)

どうせ

学問をする者はどうせあんなですよ (95)

Il est en effet un peu excentrique, mais tous ceux qui se consacrent à l'étude le sont (99, -14)

なかなか

無名氏の作にもずいぶんいいものがあるからなかなかばかにできない (65)

Il y a de bonnes choses même dans les œuvres dont on ne connaît pas l'auteur ; *il ne faut pas* les prendre à la légère (73, 13)

十五、六人の令嬢やら令夫人が集まってなかなか盛会で (72)

Il y avait quinze ou seize dames et demoiselles, et la réunion fut un *grand succès* (80, 6)

演説の続きはなかなか長くあって (102)

La conférence dure *encore assez* longtemps (105, -6)

月並みもあのくらいになるとなかなかふるっていますなあ

L'être à ce point n'est *d'ailleurs* pas banal (118, 5)

なるほど

なるほど伺ってみると不思議なことでちょっとありそうにも思われませんが (72)

En effet, votre histoire semble invraisemblable tellement elle est étrange, mais (79, -8)

まず

美的価値から申しますとまず迷亭ぐらいのところが適当かと存じます」 (131)

du point de vue de l'esthétique, le nez de Meitei est *précisément* ce qu'il faut souhaiter (134, 1)

やはり

お師匠さんはやはり留守ではなかったのだ (82)

Le professeur ... ne s'était *donc* pas absenté (87, -13)

吾輩もやはり一般猫兎の毛のはえた (87)

Pourtant, ..., mon maître me considère *toujours* comme un chat du commun un peu plus évolué que les autres (91, -4)

やはり夫婦と見える (95)

montre qu'après tout ils sont bien mari et femme (99, 8)

むすび

以上、個々の例を具体的に見てきた。それらは何らかの客観的基準に基づく分析ではなく、日本語を母語としフランス語を学んだ筆者が、夏目漱石の『吾輩は猫である』という作品を、

フランス語を母語とするフランス人ジャン・ショレ氏の手になるフランス語訳と比較対照し、筆者の言語感覚から判断して、単語や表現に見られる概念形成において、日本語とフランス語との間に大きな差があると思えたものを、主観的に選び出したものにすぎない。同じ比較対照を筆者の代わりに、フランス語を母語とし、日本語を筆者のフランス語と同じ程度に学習したフランス人が行えば、また違った結果が提出されるかもしれない。筆者の上記の結果と、その人の結果とを比較対照すれば、もう一つ別次元の対照、いわばメタ対照言語学が構築できるであろう。